

た。(記：)

○：一〇) ↓ 稜線 (一：二：四〇)

「タイム」 出合(八：五〇) ↓ 大岩(一)

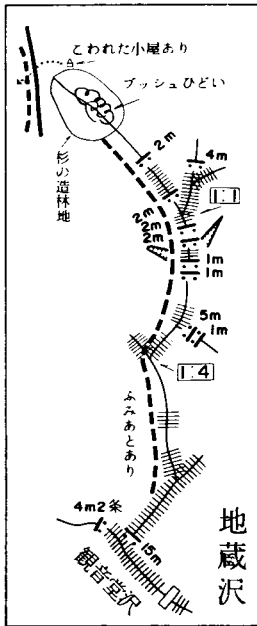
地蔵沢

一九八三年五月二日

観音堂沢右岸の林道からヤブをこいで地蔵沢出合より少し下流に降り立つ。地蔵沢出合の滝は、滝水が白いスダレをかけたようできれいである。観音堂沢本流の方も二条の滝(右岸の用水路からあふれた水が滝の

ようになって落ちていて、一見三条の滝に見える)がかかっている。

一三時四〇分、地蔵沢の遡行開始。出合の滝は右岸を捲く。バンドがたくさん走っているのので、確保者がいれば登りきれるかもしれない。この



滝の上はずっとナメである。沢幅が狭く水量にもめぐまれないのが残念である。三〇分程で二俣に出る。ここ

までは小滝はあったが、障害となるものはなかった。左俣へとルートをとる。ナメが続いている。

まもなく杉の造林地へ出る。途中から主として右岸を走っていた踏跡はここを植林する際に手入れされたものようだ。沢はブッシュがひどく、通過に意外と時間がかかるようになる。新しく成長したブッシュだけでなく、植林する前に切り払われた木々の枝などが沢を埋めているのである。最初は忠実に沢筋をたどっていたが、沢の流れもごく細くなってきたところで、地蔵沢の遡行は終了として、造林地の中の歩きやすい所を選んで尾根に出る。(記：)

「タイム」 地蔵沢出合(一三：四〇) ↓ 遡行終了(一四：四五) ↓ 尾根(一五：二〇)